職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
札幌ほいく専門学校		昭和55年11月5日		香川 朗		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-812-9626				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		山本 清		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程		こども未来学科		平成23(2011)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を習得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	保育士資格、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事任用資格の取得が可能。2024年度の中退学率は5.4%。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位数時間、単位いずれかに記入			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
		101 単位			40 単位	47 単位	13 単位	0 単位	1 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)						
120 人	110 人	0 人		0 %						
就職等の状況	■卒業生数(C)		21 人							
	■就職希望者数(D)		21 人							
	■就職者数(E)		21 人							
	■地元就職者数(F)		21 人							
	■就職率(E/D)		100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
	(令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等		令和5年度卒業生 はまなす幼稚園、認定こども園桑園幼稚園、栄保育園、きゃんぱす平岸保育園								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				#REF!					
当該学科のホームページURL		https://www.keisen-hoiku.com/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数									単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数									単位時間	
うち企業等と連携した演習の授業時数									単位時間	
うち必修授業時数									単位時間	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数									単位時間	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数									単位時間	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)									単位時間	
(B: 単位数による算定)										
総授業時数									189 単位	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数									16 単位	
うち企業等と連携した演習の授業時数									1 単位	
うち必修授業時数									1 単位	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数									0 単位	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数									1 単位	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)									0 単位	
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)									0 人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)									1 人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)									0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)									0 人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)									3 人
	計									4 人
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数									4 人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。

- ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」
- ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」
- ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は副校長を通じ、次長および課長から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	公益社団法人北海道私立幼稚園協会 副会長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
五十嵐京湖	平和幼稚園 副園長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
鈴木 朗	札幌ほいく専門学校 副校長	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	
中谷摩美	札幌ほいく専門学校 課長	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	
小川睦美	札幌ほいく専門学校	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	
若松幹子	札幌ほいく専門学校	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回開催、開催時期は概ね前期(4月～9月)1回・後期(10月～3月)1回

(開催日時(実績))

第15回	2020年12月21日	15:00～16:00	第20回	2023年7月7日	15:30～16:30
第16回	2021年9月3日	15:00～16:15	第21回	2023年12月21日	15:30～16:30
第17回	2021年12月20日	15:00～16:00	第22回	2024年3月7日	15:30～16:30
第18回	2022年7月28日	15:30～16:30	第23回	2024年9月5日	15:00～16:15
第19回	2022年12月21日	15:00～16:00	第24回	2025年3月6日	15:00～16:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

卒業年次学生の就職に関する意識について意見交換を行った。保育業界への憧れを抱き入学してきた学生が、卒業年次となり就職への意識がどのように変化しているか調査し、その結果について話し合った。結果として給与や社風、福利厚生などを重視する傾向が高く、こどもとの関わりへの関心が薄くなっている。養成校も保育現場に於いても保育の楽しさややりがいを伝え続け、学生のモチベーションを維持する仕組みづくりが必要であると共通認識した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校側と保育教育現場側が連携し、教育プログラムを共有し、相互に補完し合うことで、保育・教育実習生が学校で学んだことを現場で実践し、その経験を学校にフィードバックすることでより実践的な教育を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携している保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位(90分×8週間)実施。保育演習では連携している園での演習を通して保育施設等の機能を学ぶ。保育実習では提携している園での実習を通して保育士養成課程の保育実習の単位取得を目指す。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園
保育実習Ⅰ	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	社会福祉法人 札幌弘徳園他
保育実習Ⅱ	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	社会福祉法人 石狩友愛福祉会他
保育演習Ⅰ	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。	社会福祉法人 愛敬園他
保育演習Ⅱ	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ	社会福祉法人 光華園他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。これらは学園の教職員研修規定に定められている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を計画的に派遣する
北海道幼稚園教諭養成校協会就職委員会(年2回参加)、北海道幼稚園教諭養成校協会実習委員会(年2回参加)
北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修(年2回参加)
- ・日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	北海道幼稚園教諭養成校協会 実習委員会	連携企業等:	北海道幼稚園教諭養成校協会
期間:	2024年9月10日、2025年3月5日	対象:	教員
内容:	教育実習に関する養成校間での取り決め等		

研修名:	北海道幼稚園教諭養成校協会 就職委員会	連携企業等:	北海道幼稚園教諭養成校協会
期間:	2024年7月16日、12月12日、2025年3月7日	対象:	就職担当
内容:	保育分野の就職環境の現状把握		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容:			

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校連合会
期間:	2024年7月22日、2024年12月19日	対象:	教員
内容:	毎回異なるテーマで専修学校教員の指導力向上を図る		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容:			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容:			

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 北海道幼稚園教諭養成校協会 実習委員会	連携企業等: 北海道幼稚園教諭養成校協会	
期間: 2025年度中2~3回開催予定	対象: 教員	
内容: 教育実習に関する養成校間での取り決め		
研修名: 北海道幼稚園教諭養成校協会 就職委員会	連携企業等: 北海道幼稚園教諭養成校協会	
期間: 2025年度中2~3回開催予定	対象: 就職担当	
内容: 保育分野の就職環境の現状把握		
研修名:	連携企業等:	
期間:	対象:	
内容:		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 教員研修	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校連合会	
期間: 2025年度中2回開催予定	対象: 教員	
内容: 毎回異なるテーマで専修学校教員の指導力向上を図る		
研修名:	連携企業等:	
期間:	対象:	
内容:		
研修名:	連携企業等:	
期間:	対象:	
内容:		

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について評価委員を置き、点検及び評価を行い、その結果を公表することとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、所在地、連絡先等
(2) 各学科等の教育	入学定員、カリキュラム、卒業後の進路、資格取得等
(3) 教職員	教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の取り組み状況、就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事の取り組み状況等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置等
(8) 学校の財務	財務諸表等
(9) 学校評価	学校関係者評価の結果及び改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.keisen-hoiku.com/>

公表時期: 2024年8月10日

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2025年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1後	15	1	○		○			○	
2	○			情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1前	30	2	△	○	○			○	
3	○			健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣との関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1前	15	1	○		○			○	
4	○			スポーツ(実技)	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養う。健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1後	30	1			○	○		○	
5	○			英語コミュニケーションⅠ	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1前	15	1	○		○			○	
6	○			保育原理	「保育」を考える基本的な視点を養うために、保育の意義や目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針など多様な側面から学びを深めることを目的とする。	1前	15	1	○		○			○	
7	○			社会福祉論	社会福祉の意義や歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援に触れ、その意義や制度体制について理解を深めるとともに、子ども家庭福祉との関連についても学ぶ。	1後	15	1	○		○			○	
8	○			教育原理	保育の意義と目的、法令及び制度など保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関しての認識を深める。	1前	15	1	○		○			○	
9	○			社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を学ぶ。さらに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本や制度・実施体系・現状と課題について理解を深める。	1後	15	1	○		○			○	
10	○			こども家庭福祉	望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について、学びを深めていく。	1前	15	1	○		○			○	
11	○			発達心理学	子どもたちの心を良く理解し、適切な保育・教育・養育・指導をするための心理学的な視点の重要性を学ぶ。	1前	15	1	○		○			○	
12	○			教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ	1後	30	2	○	△	○			○	
13		○		こどもの指導法(言葉)	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先進となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深める。文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についての意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求する。	1前	15	1		○	○			○	
14		○		こどもの指導法(人間関係)	子ども達を取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深める。	1後	15	1		○	○			○	
15		○		こどもの指導法(リズム表現)	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学ぶ。	1前	15	1		○	○			○	

49	○	保育実習Ⅰ (保育所)	保育所の生活に参加し、保育内容、機能を学ぶ。保育現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	2 前	80	2			○	○	○			
50	○	保育実習Ⅰ (施設)	施設の生活に参加し、支援内容、機能を学ぶ。現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	3 前	80	2			○	○	○			
51	○	保育実習Ⅱ (保育所)	保育所の生活に参加し、保育内容、機能を学ぶ。保育現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	2 前	80	2			○	○	○			
52	○	保育実習Ⅲ (施設)	施設の生活に参加し、支援内容、機能を学ぶ。現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	3 前	80	2			○	○	○			
53	○	教育実習Ⅰ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学ぶ。	3 前	80	2			○	○	○			
54	○	教育実習Ⅱ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学びを深める。	3 前	80	2			○	○	○			
55	○	保育実践Ⅰ (保育所)	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。	2 通	75	5			○	○	○			
56	○	保育実践Ⅰ (施設)	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ。	3 通	75	5			○	○	○			
57	○	保育実践Ⅱ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	2 通	75	5			○	○	○			
58	○	教育実践Ⅰ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	3 通	75	5			○	○	○			
59	○	教育実践Ⅱ	教育実践Ⅱを基礎とし、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。	3 通	75	5			○	○	○			
60	○	保育・教職実践演習	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	3 前	30	2	○	△	○		○			
61	○	地域ボランティア	地域の児童福祉施設や社会福祉活動などへの活動を通して、教職を目指すものとしての自覚を高め、実社会の中での人間関係の構築について実践的に学ぶ。	3 通	45	3			○	○	○	○		
62	○	発達心理学	1. 発達心理学の必要性、発達に影響する要因、発達に関する主な理論、発達段階や発達課題についての知識を習得する。2. ヒトの各領域における発達の様相についての知識を習得する。	1 後	4				○		○		○	
63	○	保育原理	保育の理念、保育の基本原則、保育の歴史を学ぶ事を通して時代による家族と社会、教育のあり方を理解する。「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等の内容を踏まえ、保育の質を高める保育のあり方を学ぶ。	1 後	4				○		○		○	
64	○	教育原理	教育原理は、教育学の基本及び基礎的事項について包括的に学習し、包括的に深めていく科目である。また教育史に触れながら、過去の教育学の基礎を培った人物の功績、歴史的背景を踏まえながら、教育の本質に触れ、現在の教育状況を考察していく。	1 後	4				○		○		○	
65	○	こども家庭福祉	保育士養成課程における「保育の本質・目的に関する科目」として、こども家庭福祉の意義や、歴史の変遷、こどもの人権擁護のほか、現代の子育て家庭の抱えるさまざまな課題について学ぶ。	1 後	4				○		○		○	

82			○	こどもと表現 I	子どもの体育的活動の指導者として必要な基礎的知識と技能について学習する。子どもの心身の発達特性や運動特性を理解し、子どもの健全な心身の発達を促すための身体活動についての知識と技能を習得する。	3後	15	1	○	○	○			
83			○	こどもと表現 II	美術・造形の基礎・基本・表現技法のあり方、美術の専門知識などを学ぶ。また、子どもの絵の表現の発達の道筋をたどりながら、幼児・児童に即した造形表現の教材を視野に入れ、教材のあり方、支援・指導のありかたを理論・実技の両面から実践する。	3後	15	1	○	○	○			
84			○	こどもと表現 III	声楽における姿勢・呼吸・発声についての基本的な技能・知識を学び、演習を通して歌唱技術を高める。また、音楽解釈を基に歌唱表現を深め、曲の特徴にふさわしい楽曲表現を習得する。	3後	15	1	○	○	○			
85	○			手芸の基礎	手芸の基礎を身につけるべく、各種縫い方、ボタンの付け方等を修得する。	1後	15	1	○	○	○			
86	○			手づくりおもちゃ	「手芸の基礎」を踏まえ、保育現場で教材として使える布製のおもちゃ3作品程度を作成する。	1後	30	2	○	○	○			
87	○			幼児の音楽 I	歌、器楽合奏など通じて幅広く幼児音楽を習得する。	1通	30	2	○	○	○			
88	○			折紙 I	折紙の基本となる8つの基本形を習得し、身近な題材を折る。また、折り方の過程を作成し、折紙ファイルを作成する。	1前	30	2	○	○	○			
89	○			保育活動 I	保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。	1前	15	1	○	○	○			
90	○			指導計画 I	各年齢に合った保育内容の理解を深め、立案の方法を学ぶ。	1後	15	1	○	○	○			
91	○			パネルシアター I	パネルシアターを製作、実践することにより、視聴覚教材の一つであるパネルシアターについて学びを深める。	1前	15	1	○	○	○			
92	○			ペン字 I	ひらがな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書の完成を目指す	1後	15	1	○	○	○			
93	○			日誌指導 I	保育所実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について学ぶ。	1後	15	1	○	○	○			
94	○			ピアノ I	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。	1前	30	2	○	○	○			
95	○			ピアノ II	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。初心者はバイエル修了を目指す。	1後	30	2	○	○	○			
96	○			自分を知る心理学	心理学の基礎領域に触れながら、自身の精神活動の実態を学ぶ。何かに意識を向けることや、見る・聞く・話すといった日常的な心のしくみから自己理解、ひいてはヒトそのものの心に目を向ける意識を身につける。	2前	15	1	○	○	○			
97	○			こどものこころ	保育現場の様々な事例を通して、そこに発生するこどもの心の変化、保育者の思考について学ぶ。特に、同じ状況でも発達に応じて精神活動が大きく異なるこどもに焦点を当て、心理学を活かした実践的な心の文関方法を学習する。	2前	15	1	○	○	○			
98	○			病児保育 I	病児・病児後の発達・心理を理解する。こどもと発達と発達段階を踏まえた関わり方を学ぶ。	1後	15	1	○	○	○			

99	○		折紙Ⅱ	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。	2 後	30	2		○	○		○	
100	○		保育活動Ⅱ	保育所実習に向け、実際に子ども達と遊ぶ技術(手遊び、歌遊び、ゲーム、鬼ごっこ、ダンス等)や指導の仕方を身につけ、学ぶ。	2 前	15	1		○	○		○	
101	○		指導計画Ⅱ	各年齢に合った保育内容の理解を深め、自ら立案する力を身に付ける	2 前	15	1		○	○		○	
102	○		日誌指導Ⅱ	保育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	2 前	15	1		○	○		○	
103	○		カリキュラム立案Ⅰ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、年齢ごとの部分案を立案する。	2 後	15	1		○	○		○	
104	○		ピアノⅢ	ピアノⅡを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲の終了を目指す。	2 前	15	1		○	○		○	
105	○		ピアノⅣ	ピアノⅢを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲終了を目指す。	2 後	30	2		○	○		○	
106	○		こどものうたⅠ	「あいさつ」曲からレッスン(おはよう)(おべんとう)(おかえりのうた)。等の弾きうたいが出来るようにする。	2 前	15	1		○	○		○	
107	○		こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に、保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。	2 後	30	2		○	○		○	
108	○		こどものこころケア	保育現場における社会的場面を想定し、こどもの心がどのように動くのかをはたっつ心理学的な観点から外観する。また、こどもが日々の園生活を楽しむための具体的な環境づくりについても考えていく。	2 後	15	1		○	○		○	
109	○		病児保育Ⅱ	病児保育の概念や基本的理念、社会背景を学び、様々な病児・病後児保育室の特徴を知る。	2 後	15	1		○	○		○	
110	○		こどもの看護	病児・病後児保育における感染症対策について、具体的な且つ実践的に学ぶ。	2 後	15	1		○	○		○	
111	○		こどもの救命Ⅰ	普通救命(自動体外式除細動器業務従事者)講習の内容に加えて、小児・乳児の心肺蘇生、傷病者管理、外傷の応急手当、搬送法など学ぶ	2 前	15	1		○	○		○	
112	○		施設実習論	施設実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	3 前	15	1	○		○		○	
113	○		幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。	3 後	15	1	○		○		○	
114	○		就職指導	就職活動に向けて具体的な試験対策(履歴書指導、面接指導、マナー等)を行い、志望先へ就職することを目指す。	3 通	30	2		○	○		○	
115	○		カリキュラム立案Ⅱ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、部分案・1日案を立案する。	3 前	15	1		○	○		○	
116	○		介護概論	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身に付ける。	3 前	15	1	○		○		○	

117	○		保育活動Ⅲ	幼稚園実習に向けて、各々年齢や、ねらいに基づいた活動について、実践しながら留意点などを考え、集団遊びなどの一斉活動の指導法について学ぶ。	3前	15	1	○	○	○										
118	○		ピアノⅤ	保育の場で必要な音楽を表現豊かに演奏する技術、能力をさらに高める。	3前	15	1	○	○	○										
119	○		ピアノⅥ	保育の現場で必要な実践的音楽技術や豊かな表現で演奏する知識を広め、能力をさらに高める。ソナチネ以上を目指す。	3後	30	2	○	○	○										
120	○		保育所保育指針	保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握し、深く学習することを通し、専門的知識を高める	3後	15	1	○	○	○										
121	○		こどものうたⅢ	こどものうたⅡを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー(こどものうた200)を拡大する。	3前	15	1	○	○	○										
122	○		こどものうたⅣ	こどものうたⅢを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー(続こどものうた200)を拡大する。	3後	30	2	○	○	○										
123	○		日誌指導Ⅲ	教育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	3前	15	1	○	○	○										
124	○		保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深める。こどもや保護者、職員との関わりについて、演習を通して学ぶ	3後	15	1	○	○	○										
125	○		保育者のマナー	幼児保育・教育現場で保育者としてのマナーについて理解を深める。保護者、職員、来客等との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	3後	15	1	○	○	○										
126	○		障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。	3後	15	1	○	○	○										
127	○		コミュニケーションと心理学	実践的な保育現場を想定し、こどもの言語発達や社会性の構築がどのようになされるのかを心理学的に外観する。また、こどもが他者との関わりを楽しみ、より社会的に適応的に生きるための具体的な環境作りについて解説する。	3後	15	1	○	○	○										
128	○		こども演習Ⅰ	保育施設での子どもとの関わりを通して、保育施設の機能・概要及び保育士の職務について理解を深める。	1後	45	3	○	○	○	○									
129	○		こども演習Ⅱ	幼稚園での保育者の姿や子どもとの関わりを通して、幼稚園の機能・概要及び幼稚園教諭の職務内容について理解を深める。	2通	100	6	○	○	○	○									
130	○		福祉支援演習	児童養護施設・障がい者支援施設の見学や作業体験を通して、保育所以外の福祉施設について学び、理解を深める。	2通	30	2	○	○	○	○									
131	○		あそび研究(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	1年次から3年次までの3年間で、段階を経ながら経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。	3前	15	1	○	○	○	○									
132	○		こどもダンス&スポーツ実習Ⅰ	運動・ダンス遊びの大切さ、指導者としての知識や技術を学び、こどもの健やかな体と心の成長をサポートする力を身につける。	1後	15	1	○	○	○	○									
133	○		こどもダンス&スポーツ実習Ⅱ	幼児に教えるレベルのダンスではなく基本的な初級～中級のダンスレベルのレッスン内容を学ぶ。	2後	15	1	○	○	○	○									
134	○		こどもダンス&スポーツ実践	幼児に向けてダンスレッスンを行えるように模擬レッスンを交えながら先生としての立ち振る舞いを学ぶ。	3後	15	1	○	○	○	○									

135	○	手話	先生としての立ち振る舞いを学びます	3 後	15	1		○	○	○		
136	○	パソコン	効率よく操作するためにキーボードを見ずに入力できるよう練習し、実務に役立つ操作方法を実習する。	3 後	15	1		○	○	○		
137	○	保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現を学ぶ。	3 後	15	1		○	○	○		
138	○	幼児の音楽Ⅱ	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法など現場対応に応じた授業を実施する。	3 後	30	2		○	○	○		
139	○	エプロンシアター	保育教材としてのエプロンシアターを個人個人で作成し、演じ方を習得する。	3 後	30	2		○	○	○		
140	○	折紙Ⅲ	折紙Ⅰ、Ⅱで習得した技術を基に平面、立体、壁面、自分の作る作品に適した手法を立案し、卒業製作を行う。	3 後	30	2		○	○	○		
141	○	人形劇	人形劇の作り方の基本を学び実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。卒業発表に向け、これまでの授業で学んだ実践活動を活かし、作成、発表する。	3 後	60	4		○	○	○		
142	○	オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力(ピアノ、歌、踊り、製作など)を活かし、発表する。	3 後	60	4		○	○	○		
合計				139科目	3,129単位時間(187単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
札幌ほいく専門学校		昭和55年11月5日		香川 朗		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-812-9626			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		山本 清		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程		こども学科		平成23(2011)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識と高い保育技術を習得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	保育士資格、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事任用資格の取得が可能。2024年度の中退退学率は6.2%。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			94 単位	50 単位	114 単位	10 単位	0 単位	1 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
240 人	109 人	0 人		0 %					
就職等の状況	■卒業生数(C)		69 人						
	■就職希望者数(D)		69 人						
	■就職者数(E)		68 人						
	■地元就職者数(F)		66 人						
	■就職率(E/D)		99 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		97 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		99 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		令和6年度卒業生 石狩友愛福祉会、もなみ幼稚園、百合が原幼稚園、児童発達支援音の森、認定こども園札幌石山保育園、沼ノ端おひさま保育園							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				#REF!				
	評価団体:	受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.keisen-hoiku.com/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		単位時間						
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間						
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間						
	うち必修授業時数		単位時間						
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間						
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間						
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間						
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数		135 単位						
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		10 単位						
	うち企業等と連携した演習の授業時数		1 単位						
	うち必修授業時数		1 単位						
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位						
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		1 単位						
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1 人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		3 人						
	計		5 人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		5 人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。

- ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」
- ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」
- ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は副校長を通じ、次長および課長から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	公益社団法人北海道私立幼稚園協会 副会長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
五十嵐京湖	平和幼稚園 副園長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
鈴木 朗	札幌ほいく専門学校 副校長	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	
中谷摩美	札幌ほいく専門学校 課長	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	
小川睦美	札幌ほいく専門学校	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	
若松幹子	札幌ほいく専門学校	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回開催、開催時期は概ね前期(4月～9月)1回・後期(10月～3月)1回

(開催日時(実績))

第15回	2020年12月21日	15:00～16:00	第20回	2023年7月7日	15:30～16:30
第16回	2021年9月3日	15:00～16:15	第21回	2023年12月21日	15:30～16:30
第17回	2021年12月20日	15:00～16:00	第22回	2024年3月7日	15:30～16:30
第18回	2022年7月28日	15:30～16:30	第23回	2024年9月5日	15:00～16:15
第19回	2022年12月21日	15:00～16:00	第24回	2025年3月6日	15:00～16:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

卒業年次学生の就職に関する意識について意見交換を行った。保育業界への憧れを抱き入学してきた学生が、卒業年次となり就職への意識がどのように変化しているか調査し、その結果について話し合った。結果として給与や社風、福利厚生などを重視する傾向が高く、こどもとの関わりへの関心が薄くなっている。養成校も保育現場に於いても保育の楽しさややりがいを伝え続け、学生のモチベーションを維持する仕組みづくりが必要であると共通認識した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校側と保育教育現場側が連携し、教育プログラムを共有し、相互に補完し合うことで、保育・教育実習生が学校で学んだことを現場で実践し、その経験を学校にフィードバックすることでより実践的な教育を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携している保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位(90分×8週間)実施。保育演習では連携している園での演習を通して保育施設等の機能を学ぶ。保育実習では提携している園での実習を通して保育士養成課程の保育実習の単位取得を目指す。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園
保育実習Ⅰ	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	社会福祉法人 札幌弘徳園他
保育実習Ⅱ	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	社会福祉法人 石狩友愛福祉会他
保育演習Ⅰ	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。	社会福祉法人 愛敬園他
保育演習Ⅱ	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ	社会福祉法人 光華園他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。これらは学園の教職員研修規定に定められている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・ 産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を計画的に派遣する
北海道幼稚園教諭養成校協会就職委員会(年2回参加)、北海道幼稚園教諭養成校協会実習委員会(年2回参加)
北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修(年2回参加)
- ・ 日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	北海道幼稚園教諭養成校協会 実習委員会	連携企業等:	北海道幼稚園教諭養成校協会
期間:	2024年9月10日、2025年3月5日	対象:	教員
内容	教育実習に関する養成校間での取り決め等		
研修名:	北海道幼稚園教諭養成校協会 就職委員会	連携企業等:	北海道幼稚園教諭養成校協会
期間:	2024年7月16日、12月12日、2025年3月7日	対象:	就職担当
内容	保育分野の就職環境の現状把握		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校連合会
期間:	2024年7月22日、2024年12月19日	対象:	教員
内容	毎回異なるテーマで専修学校教員の指導力向上を図る		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 北海道幼稚園教諭養成校協会 実習委員会	連携企業等: 北海道幼稚園教諭養成校協会
期間: 2025年度中2～3回開催予定	対象: 教員
内容: 教育実習に関する養成校間での取り決め	
研修名: 北海道幼稚園教諭養成校協会 就職委員会	連携企業等: 北海道幼稚園教諭養成校協会
期間: 2025年度中2～3回開催予定	対象: 就職担当
内容: 保育分野の就職環境の現状把握	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教員研修	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校連合会
期間: 2025年度中2回開催予定	対象: 教員
内容: 毎回異なるテーマで専修学校教員の指導力向上を図る	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2025 年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1 後	30	2	○			○			○	
		○	比較憲法	中華圏の国の憲法体制を知る。また、中国(中華人民共和国)及び台湾(中華民国)の憲法体制について学習する。(2023年度未開講)	1 前	30	2	○			○				○
	○		情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1 前	30	2	△	○		○				○
	○		英語コミュニケーション	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1 後	30	2		○		○				○
	○		健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣との関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1 前	15	1	○			○				○
	○		スポーツ(実技)	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養う。健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1 前	30	1			○	○				○
	○		保育原理	「保育」を考える基本的な視点を養うために、保育の意義や目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針など多様な側面から学びを深めることを目的とする。	1 前	30	2	○			○				○
	○		教育原理	保育の意義と目的、法令及び制度など保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。	1 前	30	2	○			○				○
	○		こども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。子どもの人権擁護や子ども家庭福祉の制度・実施体系・現状と課題について理解を深め、動向と展望について考察する。	1 後	30	2	○			○				○
	○		社会福祉論	社会福祉の意義や歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援に触れ、その意義や制度体制について理解を深めるとともに、子ども家庭福祉との関連についても学ぶ。	1 後	30	2	○			○				○
	○		こども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義・目的の理解を基礎とし、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解を深める。	2 後	30	2	○			○				○
	○		社会的養護 I	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を学ぶ。さらに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本や制度・実施体系・現状と課題について理解を深める。	1 前	30	2	○			○				○

13	○		保育者論	1.保育者の役割と倫理の理解 2. 保育士の制度的な位置づけの理解 3.保育士の専門性についての考察及び理解 4.保育者の連携・協働の理解 5.保育者の資質向上とキャリア形成についての理解の5項目の習得を目標とする。	1 前	30	2	○		○		○	
14	○		保育の心理学	幼稚園、保育園における園児とのかかわりについて、心理学を基礎にして考察する。特に子どもの発達、子どもの相互のかかわりの意味を理解し、その援助の在り方について、基本的な理解を促すことを目的とする。	1 前	30	2	○		○		○	
15	○		こどもの発達と家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解する。親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解を深め、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	1 後	30	2	○		○		○	
16	○		こどもの理解と援助	こども理解を深めるための様々な視点や方法を学とともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。	2 後	15	1		○		○		○
17	○		こどもの保健	小児の成長発達と生理機能のダイナミズム、その過程で生ずる先天異常、健康保持増進のための予防接種、小児がおこす事故と安全対策について、理解が深まるように学んでいく。	2 前	30	2	○		○		○	
18	○		こどもの食と栄養	乳幼児期の健康と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、保育者として、子どもに適切な食事を提供する意義と食生活等関連するガイドライン等を踏まえ理解する。	2 後	30	2		○		○		○
19	○		保育の計画と評価	カリキュラムの構成理論についての理解を踏まえ、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法やこどもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。	1 後	30	2	○			○		○
20	○		保育内容総論	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全般を理解し、各領域を総合的に捉える視点について学ぶ。保育の基本を踏まえた保育内容に展開について具体的な保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。	1 前	15	1		○		○		○
21	○		こどもの指導法（健康）	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について学ぶ。	2 前	15	1		○		○		○
22	○		こどもの指導法（人間関係）	こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深める。	1 後	15	1		○		○		○
23	○		こどもの指導法（環境）	環境とは何かを理解し、そこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していく。	2 前	15	1		○		○		○
24	○		こどもの指導法（言葉）	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先進となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深める。文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についての意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。	1 前	15	1		○		○		○
25	○		こどもの指導法（リズム表現）	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学ぶ。	1 前	15	1		○		○		○
26	○		こどもの指導法（言語表現）	「表現」の内容を主軸として、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身に付ける。	2 前	15	1		○		○		○

27	○		こどもの指導法（造形表現）	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する。さらに材料、用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	1後	15	1		○	○									
28	○		絵本・紙芝居 I	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う児童文化財（絵本、紙芝居、ストーリーテリング等）について学ぶ。	2前	15	1	○		○									
29	○		表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びができる知識及び実践力を理論的に深める。	1後	15	1		○	○									
30	○		乳幼児保育 I	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について学ぶ。また、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題や3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。	1後	30	2	○		○									
31	○		乳幼児保育 II	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	2前	15	1		○	○									
32	○		こどもの健康と安全	子どもの健康状態の観察や発育、発達とその評価等について基本的な知識を学び、実際に体験する。実習においては、沐浴実習、調乳の実習、身体測定の実習、実践活動を重視、さらに子どもの事故と応急処置等を行う。	2後	15	1		○	○									
33	○		障がい児保育	障がいのある子どもたちと関わる為に必要な知識や支援の方法等を学ぶ。保育場面における日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解する。相談機関等の種類と内容を理解し、個別援助の概略と保護者を中心とした支援の内容を理解する。	2後	30	2		○	○									
34	○		社会的養護 II	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。	2前	15	1		○	○									
35	○		子育て支援	子育て支援の意義と原則、子育て支援の基本を理解し、子どもの健やかな育ちをめざした保護者支援の理論・技術を演習課題や事例を通して学習する。	2後	15	1		○	○									
36	○		保育所保育指針 I	平成29年3月に改訂された保育所保育指針のポイントを総則から保育内容、健康及び安全の各章について、具体的な事例を交えながら学び、保育所において子どもの健やかな育ちをどう保障していくのか考察する。	2後	15	1	○		○									
37	○		特別支援教育	特別な保育・教育ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を学ぶ。子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育試験計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深める。	2前	15	1	○		○									
38		○	環境論	具体的な環境事例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける。（保育士コース未開講）	2前	15	1	○		○									
39	○		日誌指導 I	実習日誌の必要性及び記録の方法について模擬日誌作成の演習を通し、具体的に理解する。実習後の総括と自己評価及び課題の明確化につながる記録としての日誌の位置づけについても理解する。	1通	30	2		○	○									
40		○	ピアノ I	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスンでピアノを使用して学び、基礎的技術を習得する。初心者はバイエル教則本、経験者は個人のレベルに合った教則本を使用し、演奏技術及び読譜力の向上を目指す。	1通	30	2		○	○					○	○			

41		○	ピアノⅡ	ピアノⅠを踏まえ、更に演奏技術及び読譜力の向上を目指す。初心者習得目標はバイエル教則本100番とする。	2通	30	2		○	○	○	○		
42		○	こどものうたⅠ	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。「こどものうた200」を教本とし、園生活、行事、うたあそびなどから個人のレベルに合った課題曲の個人レッスンを受け、弾き歌いの技術・技能を習得する。(保育士コース未開講)	1後	30	2		○	○	○	○		
43	○		保育活動Ⅰ	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。手遊びや見立てあそび、ごっこ遊び、運動遊びなど、保育士や他のこどもとの関係や集団の中での体験を豊かにするための知識と技術を習得する。	1前	15	1		○	○	○	○		
44	○		保育活動Ⅱ	保育活動Ⅰを基に、保育所実習に活用できる遊びを実践し、学ぶ。子どもの自立心や社会性が育つ集団遊びを実践する。ねらいに基づいた集団遊びを学ぶ。	1後	15	1		○	○	○	○		
45	○		パネルシアター	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。児童文化財(パネルシアター)に親しむ体験を豊かにするための知識と技術を習得する。素材の特性の理解とそれらの活用や作成に必要な知識及び技術を製作活動を通して学ぶ。	1前	15	1		○	○	○	○		
46	○		合奏指導	本講義では、歌、器楽合奏などを通じて幅広く幼児音楽に関わる知識と技術を習得することを目的とする。幼児音楽で使用される楽器や歌、それらの指導法などを保育者としての視点から、学ぶ。	1通	30	2		○	○	○	○		
47	○		保育・教職実践演習	本学における教育課程の全体及び保育実習等の体験を通して、専門知識と技術、総合的判断力、倫理観等の習得について学びを振り返る。現代的課題についての現状を知り、対応及び保育士、保育現場、地域等に求められることについて、多様な視点から考察する。	2通	30	2		○	○	○	○		
48		○	保育実習Ⅰ	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	2前	160	4			○	○	○	○	○
49		○	保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所及びその他の児童福祉施設等)について目的や概要を理解し、福祉職として保育士の役割を学ぶ。保育実習の心構えと準備、事後の学びとして総括・評価を経て、自己課題を明確にする。	1通	30	2		○	○	○	○		
50		○	保育実習Ⅱ(保育所)	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	2前	80	2		○	○	○	○	○	
51		○	保育実習Ⅲ(施設)	保育所以外の児童福祉施設の養護の実践をし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。施設を利用する対象児・者と養護内容の実際、施設のもつ全体的な養護機能等について、理解を深める。	2前	80	2		○	○	○	○	○	
52		○	保育実習指導Ⅱ(保育所)	保育実習Ⅱ(保育所)について目的を理解し、保育実践力を培う。保育実習Ⅰを踏まえた保育の改善を実践を通して学び、総括・自己評価を経て、保育に対する課題を明確にする。	1後	15	1		○	○	○	○		
53		○	保育実習指導Ⅲ(施設)	障がい児・者の支援についての理解・支援の実践を知り、実習に向けて意義と目的を理解する。障がい児・者施設での実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	1後	15	1		○	○	○	○		
54	○		手作りおもちゃⅠ	布の扱い方や縫い方を実践し、技術を取得する。保育実習に向けての名札を作成する。	1前	30	2		○	○	○	○		
55	○		折紙	日本折紙協会:折紙講師資格取得を目指す。	1後	30	2		○	○	○	○		

56		○	日誌指導Ⅱ	幼稚園実習に向けて、実習日誌の記録方法を学び、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について理解を深める。(保育士コース未開講)	2 前	15	1		○	○	○		
57	○		ペン字	ひらかな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書、履歴書の完成を目指す。	1 前	15	1		○	○		○	
58		○	病児保育Ⅰ	病児・病児後の発達・心理を理解する。こどもと発達と発達段階を踏まえた関わり方を学ぶ。	1 後	15	1	△	○	○		○	
59		○	ピアノⅢ	ピアノⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。	2 前	15	1		○	○		○	○
60		○	ピアノⅣ	ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。(保育士コース未開講)	2 後	30	2		○	○		○	○
61		○	こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する。	2 前	15	1		○	○		○	○
62		○	こどものうたⅢ	こどものうたⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する。(保育士コース未開講)	2 後	30	2		○	○		○	○
63	○		就職指導	就職活動に向けて具体的な試験対策(履歴書指導、面接指導、マナー等)を行い、志望先に就職することを目指す	2 通	30	2		○	○		○	
64		○	パソコン	具体的な保育事例をもとに演習を行う。デジカメ・USBメモリ・CD-ROM・プロジェクターなどの使用方法、パソコンを使用するうえでのルールとマナーを学習する。	2 後	15	1		○	○		○	
65	○		保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深め、こどもや保護者、職員との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	2 後	15	1		○	○		○	
66	○		保育所保育指針Ⅱ	保育所保育指針に引き続き、沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。	2 後	15	1		○	○		○	
67	○		こどもと体育	体育遊びを実践的に学び、指導方法やこどもの運動発達について理解を深める。こどもの成長、発達と運動の関係について学び、体育遊びを実際に体験し、自らが行うことで、こどもの気持ちに寄り添うことが出来る様にする。	2 前	15	1		○				○
68		○	こどもと食育	こどもの離乳食やおやつなど、こどもの様々な食育活動について学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2 後	15	1		○	○			○
69		○	カリキュラム立案	カリキュラム立案の大切さを理解し、幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。(保育士コース未開講)	2 前	15	1		○	○		○	
70		○	こどもの指導法「音楽表現」	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。	2 前	30	2		○	○			○

71		○	教育実習事前・事後指導	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。(保育士コース未開講)	1 後	10	0		○	○			○	
72		○	音楽表現論	子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての完成を養う。子どもが表現することの楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的技能を身に付ける。(保育士コース未開講)	1 前	15	1		○	○			○	
73		○	造形表現論	幼児造形の指導・援助者としての形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について理解する。また、技法に伴った材料、用具の特性と利用について理解を深める。(保育士コース未開講)	1 前	15	1		○	○			○	
74		○	人間関係論	人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。(保育士コース未開講)	1 後	15	1	○		○			○	
75		○	教育実習	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。(保育士コース未開講)	2 前	160	4		○	○			○	○
76		○	教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ。	1 後	30	2	○	△		○		○	
77		○	幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。(保育士コース未開講)	2 後	30	2	○		○		○		
78		○	教育課程論	教育課程に関する基本的な知識を学び、保育の専門職としての基礎を培う。(保育士コース未開講)	1 後	15	1	○		○			○	
79		○	教育方法論	世界および日本の教育方法の歴史を学び、著名な教育学者とその教育方法についての知識を身につける。身に着けた知識に基づいた実践ができることを目的とする。(保育士コース未開講)	1 後	15	1	○		○			○	
80		○	こどもの理解と相談支援	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。	2 前	15	1	○		○		○		
81		○	障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。(保育士コース必修)	2 後	15	1	○		○			○	
82		○	こどもの看護	病児・病後児保育における感染症対策について、具体的な且つ実践的に学ぶ。	2 後	15	1		○	○			○	
83		○	病児保育Ⅱ	病児保育の概念や基本的理念、社会背景を学び、様々な病児・病後児保育室の特徴を知る。	2 後	15	1		○	○			○	
84		○	こどもの救命Ⅰ	普通救命(自動体外式除細動器業務従事者)講習の内容に加えて、小児・乳児の心肺蘇生、傷病者管理、外傷の応急手当、搬送法など学ぶ	2 前	15	1		○	○			○	

85	○	手話	手話で日常会話を学び、聴覚障害者の文化や生活上抱える問題に触れ、誰もが平等に暮らせる社会のあり方を共に考える。	2 後	15	1		○	○			○	
86	○	保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現や、他の英語では学ぶことができない幼児言葉・わらべ歌などを身につける(保育士コース未開講)	2 後	15	1		○	○			○	
87	○	人形劇	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。(保育士コース未開講)	2 後	60	4		○	○			○	
88	○	オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力(ピアノ、歌、踊り、製作など)を活かし、発表する。(保育士コース未開講)	2 後	60	4		○	○			○	
89	○	育児コミュニケーション	育児についての知識を深め、育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持つようにする。(保育士コース未開講)	2 後	60	4		○	○			○	
90	○	絵本紙芝居Ⅱ	大型絵本(内容、絵、仕掛け等をすべてオリジナル)を製作し、学期末の発表会で担当を決めて発表する。表現力、創作力を洗練し、グループ作業により協調性も養われる。(保育士コース未開講)	2 後	60	4		○			○	○	
91	○	ボランティア	福祉施設でのボランティア活動をとおり、利用者とのコミュニケーションを図る。あわせて、福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。(保育士コース未開講)	2 後	60	4		○			○	○	○
92	○	手作り教材	幼児の造形に用いられる様々な素材の特性、扱い方と活動の内容、展開の仕方について体験を通して学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2 後	15	1		○	○				○
93	○	ピアノⅤ	幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。(保育士コースのみ開講)	2 後	15	1		○	○			○	○
94	○	こどものうたⅣ	より豊かな表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー(続こどものうた200)を拡大する。(保育士コースのみ開講)	2 後	15	1		○	○			○	○
95	○	介護概論	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身につける。	2 後	15	1		○	○				○
96	○	保育演習Ⅰ	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。	1 後	30	2		○	○			○	○
97	○	保育演習Ⅱ	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ	2 前	30	2		○				○	○
98	○	保育演習Ⅲ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。(保育士コースのみ開講)	2 後	30	2		○			○	○	○
99	○	保育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	2 通	30	2		○	○	○	○	○	○

100	○	保育実践Ⅱ	保育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	2 通	30	2		○	○	○	○		
101	○	保育実践Ⅲ	保育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。	2 通	45	3		○	○	○	○		
102	○	教育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。(保育士コース未開講)	2 通	60	4		○	○	○	○		
103	○	教育実践Ⅱ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。(保育士コース未開講)	2 通	60	4		○	○	○	○		
104	○	教育実践Ⅲ	教育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。(保育士コース未開講)	2 通	30	2		○	○	○	○		
合計				104科目	2,950単位時間(175 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
就業年限以上在学し、必修科目を含め94単位以上修得した者	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。